

論文審査の結果の要旨

論文提出者氏名 北田 晃司

本論文は、都市システムの形成と変容の過程を、韓国の都市システムを事例として、実証的に解明したものである。都市システムは、地理学における重要な研究課題の一つであるが、従来、都市システムの形成と変容の過程をその要因まで含めて動的に考察する研究の蓄積は十分ではなかった。このような状況に鑑み、この研究課題に取り組んだ本論文の意義は高く評価される。

本論文は8章から成る。第1章及び第2章は、研究展望を含む研究方法の提示である。第1章では、都市システムの変遷過程に関する先行研究を整理しつつ、従来の研究では十分には扱われていなかった都市システム形成要因に着目してその重要性を指摘し、都市システムの構成要素であるノードとリンクの相互規定関係とその変化に重点を置いて、都市システムの変化に関する独自の分析モデルを提示した。すなわちこのモデルは、ある特定の段階における都市システムの構造には、その段階の形成要因のみならずそれ以前の段階の形成要因も影響していること、そしてリンクがノードを規定する段階からノードがリンクを規定する段階へ、さらに再びリンクがノードを規定する段階へと移行することを骨子とする発展段階モデルである。そして第2章では、韓国の都市システムに関する先行研究を整理して、これらの到達点と問題点を示し、第1章で提示した分析モデルに基づく実証的事例研究の意義を明らかにした。

第3章及び第4章は、第2次世界大戦前の日本統治時代の朝鮮を対象とする事例研究である。第3章ではノードの指標として行政的中枢管理機能及び経済的中枢管理機能の立地を分析し、第4章ではリンクの指標として鉄道網の発達及び都市間鉄道旅客流動を分析した。その結果、基本的にはリンクがノードを規定し、近代以前の都市システムの影響と日本の植民地統治政策による影響に基づく二元的構造から、次第に日本の植民地統治のもとで一元的構造へと変化しながら、第2次世界大戦前の都市システムが形成され変化してきた過程を明らかにした。

第5章及び第6章は、第2次世界大戦後の高度経済成長期の韓国を対象とする事例研究である。第5章ではノードの指標として行政的中枢管理機能及び経済的中枢管理機能の立地を分析し、第6章ではリンクの指標として鉄道・バス・航空による都市間旅客流動を分析した。その結果、戦前から継承された都市システムに対する高度経済成長期の産業構造及び経済政策の影響のもとで、基本的には戦前とは逆にノードがリンクを規定しながら、

現在の都市システムが形成されてきたことを明らかにした。

第7章では、今後の脱工業化・サービス化・情報化の進展に伴う韓国の都市システムの変化について、これまでに得られた知見に基づいて展望を試み、新たな形でリンクがノードを規定する段階に至る可能性を提示した。そして第8章では、結論として、上記の各章において得られた知見を整理した。

以上のように本論文は、韓国の都市システムの実証的分析を通じて、都市システムの形成と変化の過程を分析するための新たな研究の枠組を提示し、異なる地域や発展段階への応用可能性を示すことによって、地理学及び関連分野に貴重な知見を提供し、多大な寄与をなしたと評価出来る。よって、博士（学術）の学位を授与出来ると認める。